

IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究
(分担) 研究報告書

自己免疫性膵炎の全国調査

研究分担者 下瀬川徹 東北大学 名誉教授
正宗 淳 東北大学大学院 医学系研究科 消化器病態学分野 教授

研究要旨

前回の自己免疫性膵炎全国調査から5年が経過し、現状の把握が必要である。本研究では2016年受療患者を対象とした全国調査を実施した。

A. 研究目的

自己免疫性膵炎を含むIgG4関連疾患は疾患概念の啓発・普及により新たに診断される症例が増加している。自己免疫性膵炎の実態調査としてこれまでに3回の全国調査が行われており、前回調査から5年が経過した。本研究の目的は第4回目の自己免疫性膵炎全国調査により実態を明らかにすることである。

F. 健康危険情報
該当なし

B. 研究方法

平成29年末に全国の2502診療科（内科（消化器内科を含む）と外科（消化器外科を含む）を標榜する診療科）へ一次調査票を発送し、集計を行った。

G. 研究発表
1. 論文発表
該当なし
2. 学会発表
該当なし

(倫理面への配慮)

研究分担者施設倫理委員会にて承認済み
(2017-1-163)

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)
該当なし

C. 研究結果

平成30年3月末までに854診療科より回答が得られた(回答率: 34.1%)。2016年の自己免疫性膵炎年間受療患者数は13,440人(95%信頼区間: 10,950-15,920人)(うち新規 3,980人)(95%信頼区間: 3,210-4,760人)であり、前回調査の約2.3倍であった。

D. 考察

本邦における自己免疫性膵炎患者数は増加を続けており、現在進行中の二次調査により詳細を明らかにする必要がある。

E. 結論

自己免疫性膵炎全国調査を実施し、平成28年の受療患者数を推定した。